

31P-0307

抗腫瘍作用を有する人工タンニンの合成

○小川 卓也¹, 波多野 力¹, 坂上 宏², 竹内 靖雄¹(¹岡山大院医歯薬, ²明海大歯)

【目的】ガロタンニンは、ガロイル基と糖部位より構成される加水分解タンニンである。天然の本化合物については、口腔ヒト腫瘍細胞に対する細胞障害作用が報告されている。演者らは、さらなる知見を得るために、ガロタンニン類縁体の合成およびヒト腫瘍細胞に対する細胞障害作用の評価を行った。

【方法・結果】単糖を骨格とするペンタガロイルグルコースの活性評価については、既に行われている。そこで、二糖、三糖、四糖などの糖骨格を有するガロタンニンを合成した。さらに、ガロイル基を変換したガロタンニン類縁体の合成を行った。これらの化合物の細胞障害活性を測定し、腫瘍選択性を評価した。

